

平成24年度 薩摩川内市教育委員会事務事業評価結果一覧表

課名	事業No	事業名	内部評価（一次）			内部評価（二次）			外部評価（行政評価会議委員）
			今後の改革の方向性	左記の理由	手段・計画	内部評価結果	今後の改革の方向性	左記の理由・意見	主な意見
教育総務	1	教育施設 学校施設整備事業	現状のまま継続	現在の計画に従い、国が目標としているH27年度までの耐震化率100%を目指していきたい。	今年度で耐震2次診断が全て終了し、耐震性が劣る建物が25棟となっている。緊急性の高いものから順次、年次的に耐震補強や大規模改造を行っている。	・妥当性⇒◎ ・効率性⇒◎ ・有効性⇒◎	現状まま継続	年次計画に沿った確実な事業実施	<ul style="list-style-type: none"> ●命に関わる事業であるので、確実な事業の実施をお願いしたい。 ●計画的に耐震が達成できるよう望む。 ●予算を目一杯活用して早急に行う必要がある。
学校教育	2	指導 薩摩川内元気塾	見直しの上で継続（手段の改善）	本年度から中学校区単位での推進委員会の設立とした。来年度以降、小学校間及び小中学校の合同開催などの回数を増やし全体の回数を若干減らすことで、講師謝金及び旅費等の減額を検討し、事業を継続したい。	平成24年度薩摩川内元気塾委託料配分基準から10%程度の減額で調整していきたい。	・妥当性⇒◎ ・効率性⇒◎ ・有効性⇒◎	現状まま継続	地域と一体となった開催や地元講師の招聘を検討	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・保護者にも大変好評である。継続して事業の実施をお願いしたい。小中合同開催については、小1から中3の発達段階を考えると難しい面があるのではないかと。 ●特筆すべき事業であるので、推進委員会の充実を図り、継続されたい。 ●学校教育では学べない地域の文化・歴史を学ぶ大事な体験学習と考える。 ●将来の人材育成の観点から、地道で長期間に渡る取組みが大切である。 ●講師の選定、中学校区の選定、PRの方法等を工夫し、回数及び参加者の増加を図ること。
	3	教職員 甌アイランドウォッチング事業	見直しの上で継続（手段の改善）	見るだけでなく、ふれる、つくる、食べるなどの直接的な体験活動や地元児童や住民とのふれあい活動など、内容を充実していくことでより良いものにしていく。	甌島でボランティアで協力して下さっている方々への謝金や諸雑費について今後予算化を検討していく必要がある。	・妥当性⇒◎ ・効率性⇒○ ・有効性⇒◎	見直しの上で継続（手段の改善）	甌島の子供達との交流時間の検討	<ul style="list-style-type: none"> ●甌島の子供が薩摩川内市の高校に入学するきっかけになるので、推進してほしい。 ●子供たち、教職員ともに事業の有効性を認識している。 ●甌島を体験した子供が親を誘って出かける風潮が生まれてくればよい。 ●島の子供達との交流は特に大切だと考える。 ●郷土愛を育み郷土を発見する試みとして継続が必要である。 ●1日では滞在する時間が短い。参加児童を増やすためのPRの工夫も必要である。
	4	学事 薩摩川内市特別奨学資金支給事業	現状のまま継続	本事業は昭和42年度に有志家の寄附により創設された基金をベースに基金の利子と一般財源から支給を行っている。見直す点もあるが、創設時の有志家の意向もあるので、当面は現状のままで継続が妥当と思われる。	創設時と現在との社会経済情勢や、学校学科の再編等を考慮し、他の奨学金制度との比較・研究を行いつつ、本市の貸付制度を含めた見直しを検討していく必要がある。	・妥当性⇒◎ ・効率性⇒◎ ・有効性⇒◎	現状まま継続	社会経済情勢の変化を踏まえた支給対象拡大の検討	<ul style="list-style-type: none"> ●景気低迷に伴い、就学が困難な家庭が増えることが予想される。対象拡大を図るなどして継続されたい。 ●市外の高校へ通う生徒への支給も検討されたい。 ●どれだけの人が恩恵を受けたか計り知れない事業である。継続をされたい。 ●支給対象を絞って支給額を上げるのか、支給額を落として対象を広げるのか検討が必要である。
	5	保健体育 小学校綱引競技大会	現状のまま継続	本大会を実施する上での日程、プログラム、参加チームや参加人数、会場等を総合的に判断すると、現状のまま継続していきたいと考える。		・妥当性⇒◎ ・効率性⇒◎ ・有効性⇒◎	現状まま継続	児童数減少に対する合同チームの編成等柔軟な対応の検討	<ul style="list-style-type: none"> ●綱引連盟主催の大会もあるので、一本化による合同開催を検討されたい。 ●指導者の差があるので、指導者育成も図られたい。 ●実施時期が1学期であるので、学級・学年の仲間作りにも貢献している。現状のまま継続されたい。 ●綱引は本市にとって歴史的なものである。子供達に理解の上、競技を継続されたい。 ●児童数が減少する中で、チーム編成の工夫に努められたい。
	6	給食管理 学校給食における地産地消推進	見直しの上で継続（拡大）	地域の食文化、食に関する産業、自然の恵みに対する児童生徒の理解を図る上でも拡大していく必要がある。	関係団体、納入業者及び生産者との連携を強化し、地場産物を安定的、効率的に調達する仕組みづくりを推進する。	・妥当性⇒◎ ・効率性⇒◎ ・有効性⇒◎	見直しの上で継続（拡大）	<ul style="list-style-type: none"> ●地産地消についての理解促進と協力要請 ●関係団体との連携・協力促進 ●地場産品の安定供給確保のための体制確立 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の安全・安心な農産物の提供とフードマイレージ（食材距離）削減のため、更なる推進をされたい。また、食育推進の観点から農家との交流等も含めた協力体制の確立も併せて推進されたい。 ●地産地消の考え方を学校給食と結びつけた点は大いに評価できる。 ●一定の食材を安定的に確保する努力とシステムが必要。
	社会教育	7	社会教育 「親の育ちが子の育ち」推進事業	見直しの上で継続（拡大）	現在は、公立幼稚園、小・中学校において家庭教育学級を開設しているが、今後は、私立幼稚園、保育園等での開設や学校・家庭・地域の連携を通して、地域全体での子育て環境を充実させることが必要である。	私立幼稚園、保育園での家庭教育学級の開設及び講演会への参加 地区コミュニティ協議会と連携した青少年体験活動の充実 孫育て講座等の開催 小・中一貫教育に合わせたそれぞれの家庭教育学級間の連携活動	・妥当性⇒◎ ・効率性⇒◎ ・有効性⇒◎	見直しの上で継続（拡大）	幼稚園・小学校・中学校の家庭教育学級の連携の検討
8		青少年教育 青少年フレッシュ体験事業	現状のまま継続	青少年の体験不足が叫ばれている今日、本事業は貴重である。また、本年度から青少年海外派遣事業を廃止したこともあり、唯一残る本事業は継続したい。	青少年の事業やイベントの中で、その体験を発表出来る場を設けたり、各子ども会などでもリーダーとして活躍できるように、関係団体等と協力して活躍の場を作っていくべき。	・妥当性⇒◎ ・効率性⇒◎ ・有効性⇒○	現状まま継続	事業実施後の活動フォローの検討	<ul style="list-style-type: none"> ●予算があれば1人でも多く体験してほしい。 ●体験格差が学力格差に繋がっているという指摘もあり、継続されたい。 ●参加した児童・生徒の発表の場や受入スタッフとしての活用など、体験後の活躍の場を提供できるように検討されたい。 ●体験文集を作成・発行して多くの人に事業内容を知ってもらうこともできるのではないかと。 ●頭ではわかっているが体験不足の子供が多く残っている。今後、県外・海外派遣事業は特に必要と考える。 ●PR方法を検討し、多くの地域の多くの家庭からの参加を検討されたい。

平成24年度 薩摩川内市教育委員会事務事業評価結果一覧表

課名	事業No	事業名	内部評価（一次）			内部評価（二次）			外部評価（行政評価会議委員）
			今後の改革の方向性	左記の理由	手段・計画	内部評価結果	今後の改革の方向性	左記の理由・意見	主な意見
文化	9	文化振興 春の芸能祭	現状のまま継続	市内全域の郷土芸能、舞踊、音楽など伝統芸能を発表する大会として、市民の文化活動を周知し、振興を図るよい機会であることから継続したい。	平成23年度より、市文化協会へ委託事業に変更した。大会終了後の反省点を、相互に共有し、次回大会に活かせるように打ち合わせを充実させ、改善に努める。大会の企画、出演者等に改善を加え、観客動員の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 妥当性⇒◎ 効率性⇒◎ 有効性⇒◎ 	現状まま継続	観客動員数の増加策の検討	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層の参加やジャンルの拡大を図りながら充実・発展をさせたい。 営々と受け継がれてきた郷土の歴史・文化は大事に育成し、次の世代に伝承されるものである。 観客動員数及び参加団体の増加を図る必要がある。開催時期、開催場所、回数を検討されたい。
	10	文化財 薩摩川内市文化財少年団事業	見直しの上で継続（拡大）	平成19年度にスタートした際に加入した5年生が昨年度卒団し、高校生となり、サポーターとして手伝ってくれている。団員は固定化しており、新規団員の確保がなかなか難しいが、概ね15名程度毎年団員となっている。残念ながら、中学生になると部活の合間に出席するため、出席率が低いことから、出席率を高くすることを検討していきたい。	「知る」「触れる」「体験する」といった「受け」に重点を置いた活動を主体としている。まず、知ってもらうことが大事である。経験してもらうことによって、1人でも多くの子もたちが、郷土の歴史やそのほか自然史等に関する学びの機会を設けていきたい。これまでも年間を通して団員は募集しているが、今後は、随時小中学校にも周知するようにし、また、再度団員にも参加できるようにスケジュールの調整やアンケートを実施していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 妥当性⇒◎ 効率性⇒◎ 有効性⇒◎ 	見直しの上で継続（拡大）	事業の広報・周知と更なる団員の増加策の検討	<ul style="list-style-type: none"> 事業の周知を図るため、活動内容を発表する場の設定も検討されたい。 地元歴史・文化を知ることは大事である。新規団員の確保にも力を入れ、多くの子も達が市の文化財を体験できるよう努められたい。 郷土の歴史・文化を知ってもらう事は、地域愛、郷土愛を育む大事な教育である。 団員の固定化もよいが、その都度参加できるように検討できないか。
市民スポーツ	11	スポーツ振興 スポーツ合宿等誘致事業	現状のまま継続	今年度の県外からのスポーツ合宿者数は前年度より減少となったが、県全体は年々増加している。県内でのスポーツ合宿者延べ人数で本市は鹿屋市、志布志市、南さつま市、さつま町、霧島市、鹿児島市、奄美市、について第8位（県のH23年度調査結果）である。本市はスポーツ交流研修センターの10月末供用開始に伴い、新たな合宿団体の誘致に取り組んでいきたい。	市体育協会と一体となって受入れ体制を構築し、市の合宿誘致事業と合わせて体育協会加盟団体と合宿誘致訪問を行ってほしい。また、誘致訪問の際にPR用として総合運動公園+市内体育施設のパンフレットを作成する予定。供用開始後はスポーツ交流研修センター運営協議会を発足して運営に関する事項について審議をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> 妥当性⇒◎ 効率性⇒○ 有効性⇒◎ 	見直しの上で継続（拡大）	<ul style="list-style-type: none"> 奨励金対象団体の見直し検討 競技力の高いチームの合宿誘致の促進 	<ul style="list-style-type: none"> トップアスリート等が活用することにより、経済的効果も大きい。また、青少年との交流の場を設けることで将来の夢や希望に繋がる事業でもある。 スポーツ交流研修センターを有効に活用し、合宿団体の誘致増に努められたい。 薩摩川内市の地の利を生かした事業であり、今後も継続されたい。
	12	健康スポーツ 健康スポーツ教室事業	現状のまま継続	市民の健康維持のひとつは、「体を動かす」ことであることは理解しているが、多くの市民は、何をどの様に始めたらいいかわからない状況である。各年代・男女に広く、各種の健康スポーツ教室を提供することで、個々のニーズに応じた運動の「きっかけ」を提供できる。特に、幼児から高齢者までが、それぞれの必要に応じた教室に参加し、ある程度成果を得られた後は、スポーツクラブへの入会を促し、習熟度に応じた受け皿もできている。	ニーズに応じた健康スポーツ教室を提供するためには、市民や教室修了者にアンケートを実施し、どのような教室を希望しているのかの把握を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 妥当性⇒◎ 効率性⇒◎ 有効性⇒◎ 	現状まま継続	<ul style="list-style-type: none"> スポーツクラブとの連携と活用 事業の市民への広報・周知 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が参加できる場を作っていくことが大事。 市民の多岐にわたるニーズをできるだけ満足できるように努力されたい。 スポーツを通じた健康・体力づくりに対する市民の意識は高まる一方である。各年代のニーズに応じた教室を工夫して継続をされたい。 日によって選択できるような事業も検討してはどうか。
少年自然の家	13	管理 少年自然の家維持補修費（工事請負費）	現状のまま継続	利用者の安全性の確保の面から、維持補修経費は必要不可欠である。	毎月の安全点検は、確実に実施し、危険箇所の早期発見、早期対策を講じる。大規模改修や、専門的・技術的な箇所は、予算要求していく。	<ul style="list-style-type: none"> 妥当性⇒◎ 効率性⇒◎ 有効性⇒◎ 	現状まま継続	中長期的な保全・整備計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動の中核的な施設である。安全性の確保は、最優先事項であるので、確実な維持・補修をされたい。 中長期計画を立てて予算要求をする必要がある。
	14	研修指導 主催事業 夏のアドベンチャー「薩摩川内ほっけもんの旅」	現状のまま継続	甌島の恵まれた自然と地形を活用した、体験活動は発達期にある児童生徒の心身に多大な好影響を与えている。甌島の文化に触れる大変良い機会であり、甌島に対する理解が深まる。	甌4地区で（里・上甌・鹿島・下甌）年度ごとに内容を精査検討し実施 甌島の自然を大いに活用した体験活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 妥当性⇒◎ 効率性⇒◎ 有効性⇒◎ 	現状まま継続	サポート体制の充実と強化	<ul style="list-style-type: none"> 多くの子もにチャンスを与えてほしい。 参加者は、自然への感動、縦割りの班活動、他校生との交流など貴重な体験を行い、ふるさとの素晴らしさを発見している。3泊4日の日程が縮減されることなく、継続をされたい。 事故がないよう指導体制の充実と強化に努められたい。 定員50名の確保と安全面に配慮されたい。
中央図書館	15	図書館 視聴覚ライブラリー事業	見直しの上で継続（手段の改善）	学校教育分野では、学校教育教材巡回の廃止等により、教材利用が減っているため、貸出方法の改善等を行うとともに、社会教育分野では、出張映画会の回数増や広報を強化し、利用促進につなげたい。	学校での教材利用については、貸出手続きの簡素化を図るとともに、地区コミュニティ協議会、児童クラブ、社会福祉施設等に対しては、広報活動の強化や出張映画会の開催等により利用促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 妥当性⇒◎ 効率性⇒◎ 有効性⇒○ 	現状まま継続	事業の市民への周知と時代の変化を踏まえた利用促進策の検討	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚機材、教材を各学校や施設で整備することは難しい面もあるので、本事業は継続されたい。 移動図書館の一角に視聴覚コーナーを設けるなど利用の拡大を検討されたい。 市民への広報・周知により、教材、機材の有効活用が図られるよう努められたい。